

七 現代の姫路

(一) 姫路の工場群

広畑製鉄所 第一次世界大戦の後、世界の列強は軍備拡張競争をくりひろげました。わが国もこのころから軍需産業に力を入れ始めました。一九三二年（昭和七年）四月、政府は日本製鉄株式会社法を公布して、国と民間が共同で製鉄会社をつくることを決め、翌年九月に半官半民の日本製鉄株式会社をつくりました。一九三七年三月、飾磨郡広村（今の姫路市広畑区）に日本製鉄広畑製鉄所を建設することにし、四月から工事を開始しました。

田や海を埋めて造った四百六十万平方メートルという広い敷地に、二年七か月かかって、大製鉄所が建設され、一九三九年十月から操業を開始しました。

ての役割を担っています。



昭和32年ごろの広畑製鉄所

戦後、広村は姫路市に合併されました。また、日本製鉄は国の手を離れ、民間会社として再出発しました。広畑製鉄所は鉄の生産量世界一を誇る新日本製鉄株式会社製の製鉄所として、姫路地方最大の工場となりました。その後、工場の規模は縮小されましたが、鉄くずをリサイクルして原料とする工場に生まれ変わりました。そして現在も、鉄の重要な生産拠点とし

臨海工場群

一九四六年（昭和二十一年）三月、姫路市に合併された海岸部の網干・広畑・飾磨・白浜には、大正時代から昭和十年代に、たくさんの工場が建設されました。主なものを創立順にあげると次のとおりです。

一九一三年 敷島紡績姫路工場 綿糸・綿織物製造。

一九一九年 大日本セルロイド（現在、ダイセル化学工業）セルロイド製造

一九二九年 山陽特殊製鋼 特殊鋼製造

一九三四年 合同製鉄姫路製造所 レール・鉄鋼製品製造

一九三七年 日伸製鋼（現在、トーアスチール）各種鉄鋼製品製造

一九三七年 神戸鑄鉄所姫路工場 鑄物・圧延用ロール

一九四二年 広畑海運（現在、日鉄物流）海上運送業

一九四三年 東京芝浦電気（現在、東芝）姫路工場 受信管製造

このような大きな工場ができると、周辺に下請工場や関連工場が、次々に誕

生し、海岸地帯は、いつの間にか
大工業地帯になっていました。そ
うして、戦争が始まると同時に、
これらの工場は軍需工場になった
のです。